

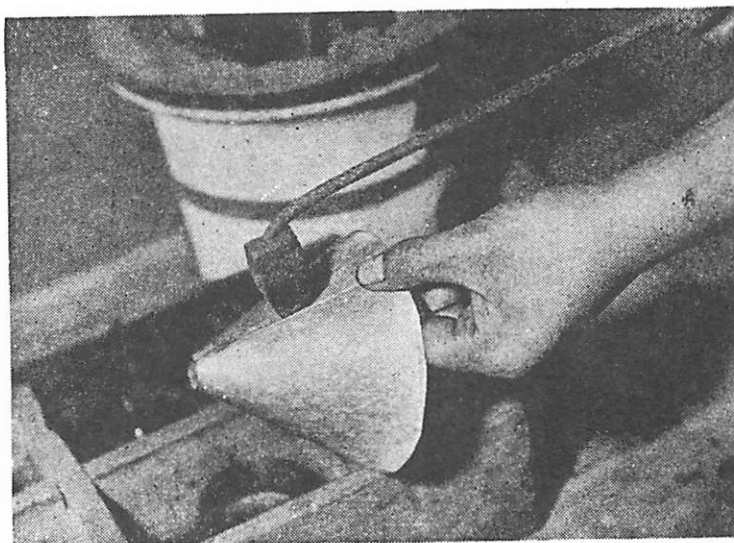
教育と産業

産業教育研究連盟

第五卷 第八号

- 職業・家庭科の今後の問題……清原道寿… 1
全国職家研大会・討議のあらまし…………… 6
大会をかえりみて……………林 勇…11
新指導要領をどう受けとめるか…長谷川 淳…13
実践報告・北海道余市サークルのばあい
……………大垣内重男…17
座談会 現場から連盟にのぞむもの……………21
定例研究会 製図の指導……………杉田正雄…26
会員だより……………28

9 月



(ハンダづけ)

バグウォッシュの声明

科学技術と道徳

カナダのバグウォッシュにおける国際科学者会議が発した、戦争は廃絶しなければならぬという趣旨の声明（本年七月十一日）は「世界中の科学者がはげまされ、また科学者以外の人々によい影響を与えることによつて、直接たると間接たるとを問わず科学が人類のために、いささかなりとも貢献したいという気持ちのあらわれである」（湯川秀樹 世界九月号）という。

朝日新聞学芸欄はさきごろから、「あいまいな言葉」をとりあげているが、「主体性」ということはをとりあげた際、そのなかで武谷氏はつぎのようにのべている。「自然科学は、ただ自然現象を記述するのではなく、人間が自然に働きかけることで成立する。この意味では昔から「主体的」なものといえる。……中略……。しかし、このような「主体性」とは、たんに自然観測者としての主体性だが今日の科学者には、別の意味での主体性が要求されている。それは、人類の福祉に仕えるという主体性だ。科学者の知識と一般の人た

ちの知識の間のギャップがあまりにかけはなれてしまった今日、原水爆に反対し、科学を人類の幸福のために使うために意見をどしどし発表するのが、いまの科学者に要求されているいちばん大事な「主体性」ではあるまいか」

としての人格教育・しつけ教育が強調され「技術者倫理の徹底」がいわれるが、これが武谷氏の意見やすぐ前にのべたねらいを基盤としているようには見受けられない。このような基盤のない人格教育・技術者倫理の徹底は、単に社是への忠誠と文句をいわない勤勞態度の育成にとどまるだろう。

科学技術振興への関心がたかまり、具体的な教育計画化作業のすすんでいる現在、右の見解には深い注意が払われてよい。自然科学教育といい、技術教育といい、社会科学の学習と結び合わない純科学的・純技術的な学習にとどまることはできない。職業・家庭科で技術の学習をまどとして、社会的経済的知識・理解をたかめることが要求されるのも、この意味からであろう。科学・技術がもつてい

る社会的経済的な意義を真に理解させることによつて、技術を「主体的」に駆使しうる人間の形成がはたされるといふわけだ。

最近の科学技術振興に関する意見のなかには、どうかするとなにはおいても、「産業人

科学技術教育とならんで、今日の教育への関心の中心となつていのは「道徳教育」である。ところが、この面でも同じことがいえる。生徒が科学技術の学習をとおして、そこに結び合う社会的条件を理解することで、真の行動規範は育てられる。さらには、社会科学の学習の中心が、人のいのちの大事さの究明にむけられてはじめて、自他の幸福を確保していく行動の根は育てられるだろう。「親考行」「老人へのいたわり」「さえ、実はこの根から咲く花であるはずだ。

科学技術教育と道徳教育、科学技術の教科と社会科との結びあいを、バグウォッシュの声明を機として、いま一度考え直してみたらどうかということ、これがこの小文の趣旨である。（後藤）

職業・家庭科教育の今後の課題

高田 研究集會をかえりみて

清原 道寿

一、まえがき

職業・家庭科が中学校に新しくおかれて一〇年になる。その間、この教科書ほど変転し、混乱と不振をきわめた教科はないとよくいわれる。こうなった原因にはいろいろあるだろう。たとえば政府の教育予算軽視からくるものもろの問題——実習に必要な施設・設備の貧困、実習の効果をあげるには、一人の教師の担当生徒は三〇名までであるのに六〇名をこえる現状、教員養成や現職教育などが、この教科の不振と混乱をひきおこしている大きな原因といえよう。また、高校入試の準備教育が中学校教育全般をゆがめているがとくにそのゆがみが職業・家庭科教育にしわよせされている。しかし、ここでは、職業・家庭科をめぐるこれらの諸問題にふれることはやめて、この教科自体の内容面に問題をしばって、その混乱の原因と職業・家庭科の今後の課題を考えてみよう。

二、性格づけをめぐる問題

職業・家庭科は、中学校で普通教育としておこなう教科として発足したはずなのに、男女共通に一般教養としてこの教科を学習する意味が明確でなかった。このことについては、本誌上でもしばしばふれたことである。しかし、中央産審の第一次建議、日教組教研集

會の松山・金沢における論議、研究連盟の数次にわたる研究集會を通じて、本教科が一般教養として技術教育をおこなう教科であることが、一応確認されてきている。

それでは普通教育として、一般教養としての技術教育がなぜ必要であるか。これについては、ここではくわしくふれないが、簡単に要約するとつぎのようである。

(1) 全人教育の立場から考えて、子どもたちを全面的調和的に発達した人格に育成するには、頭・心・手の教育を必要とする。これまでの普通教育では、頭・心の教育に中心がおかれていて、——技術の教育を一般教養として位置づけていなかった。こうした頭・手の教育に中心をおく一般教養主義を是正するために、一般教養としての技術教育が必要である。

(2) われわれの認識は、主として生産的労働を手がかりとして生じたものとしてえられる。われわれは物質的生産活動を手がかりとして、自然の現象、自然の性質、自然の法則性、人間と自然との関係を理解するようになり、さらに人間と人間との一定の相互関係を具体的に認識するようになる。ルソーはエミールの教育において、木細工師の技術の学習を手がかりとして、その職業生活、さら

には社会についての正しい認識をえさせることに、教育と生産的労働の結びつきを考えた。また、普遍的な自然科学の法則性の理解に中心をおく科学教育は、技術教育に裏づけられて、具体的な理解となるのである。

(3) 現代において、国の技術的水準の高まりは、国民全体の技術的教養の高まりなしには達しえられないことである。欧米諸国が普通教育を一般教養として位置づける方向をとっている理由の一つは、国民大衆の技術的教養を高めることによって、国の技術的水準を高めようとするにある。とくに第二次大戦を契機とし、戦後におよぶいちじるしい技術の発展に即応して、普通教育における総合的な一般的技術教育が重視されるとともに、専門技術教育の分野においても、これまでの狭い技術訓練の教養が否定されて、科学技術について広い視野をもった人間教育が要求されてきている。たとえばソビエトの教育計画がそうであるし、ソビエトに刺戟されて出されたというイギリスの技術教育白書においても、これまでのイギリスの技術教育が、徒弟制度による教育に依存する面が多く、狭い職業訓練になっていたのたいし、進みゆく技術革新に対応するため、学校教育において科学技術について広い教養をもつ人間の育成を本格的にとりあげるにいたっている。

では、職業・家庭科を普通教育として、一般技術教育をおこなう教科であるとき、職業・家庭科職業コースと家庭コースをそれぞれどう性格づけたいだろうか。このことについて、われわれ連盟では、第一次建議以来しばしば明らかにしてきたように職業コースは国民経済・国民生活の改善向上に役だつ基礎的技術の習得と、それを通じて産業技術のありかたの理解を与える科目であり、

家庭コースは、家庭生活の改善向上に役だつ基礎的技術の習得と、それを通じて家庭生活の合理化・民主化についての理解を与える科目ということが出来る。またそれをいいかえれば、職業コースは、社会科学・自然科学の法則性を生産に適用しうる能力を生徒に身につけさせる科目であり、家庭コースは社会科学・自然科学の法則性を家庭生活に適用しうる能力を生徒に身につけさせる科目であるともいえる。こうした規定によれば、他教科たとえば社会科や理科とこの教科との関連も一応明らかにとらえられるであろう。

たとえば、社会科の学習で労働基準法がとりあげられるばあい、基準法の各項目が解説的に知識として学習されるであろう。職業の学習ではその知識を技術学習の過程において適用するように指導がおこなわれなければならない。作業室で重い材料を運搬するとき、少年ならびに女子の重量制限の基準法の項目が、生徒に具体的に指導できるであろう。また、われわれは木工機械から出る塵埃やスプレーガンによる塗料粉末にほとんど考慮をほらっていない研究授業を参観するが、これらの粉塵の防除についても基準法では、きまりがあるはずである。もし予算関係などで防除装置が完全にできないばあいにおいても、それはそれなりに社会科で解説的に学習した基準法を生産の場において具体的に指導できるであろう。また、社会科では日本の産業構造についても概説的にふれられているが、職業の学習では技術学習を通じて、産業技術のありかたを追求することによって、日本の産業構造を具体的にとらえることができるであろう。

つぎに理科は自然科学の法則性を理解することに中心をおく教科であり、たとえばエンジンやラジオをとりあげるばあいは、その構

造や機能について普遍的な法則性を理解させるところに中心がおかれる。したがって理科でエンジンやラジオをとりあげるばあい、それは普遍的な法則性を理解させるための教弁物としてである。だから実物がなければ模型でも、さらには掛図によってでもできないというわけではない。しかし技術学習では、それらの普遍的な法則性が生産目的に適用されなくてはならない。理科で学習した普遍的な法則性を基礎として、実際に石油発動機が操作でき、ラジオが製作できなければならぬ。

家庭の学習についていえば、たとえば家族関係についてのべてみよう。現在、社会科学の学習で、民主的な家族関係のありかたについて、教科書をもてかなりのページ数がさかれていて、家庭の教科書の三倍におよぶものさえある。しかも、家庭の学習内容は社会科学の内容と重複し、それを簡単にしたようなものであるうえに、なかには社会科学の学習と矛盾して「愛情」という衣の下に、古い家族制度の温存をちらつかせている内容のものさえ見つけられる。家庭の学習が「社会科学・自然科学の法則性を家庭生活に適用できるような能力を生徒に身につけさせる」ような学習でなければならぬとすれば、このように、社会科学で学習した内容を薄めてくりかえし学習したり、またそれと矛盾するような内容の学習でよいものだろうか。これからの家庭の学習では社会科学で知識として学習されたことを、家庭のプロジェクトの学習過程においてどう生かすかをもっと研究すべきであろうし、知識・理解として生徒に学習させるにしても、社会科学のくりかえしでなく、それに基礎をおいた内容と方法を究明する必要がある。

また、家庭の調理の学習でよく計量器が使われているが、この計

量器一つをとってみても、理科や職業で学習した計量器の構造や機能の普遍的な法則やその取りあつかいを、全く無視して指導している家庭の学習によく遭遇する。これは家庭の学習で計量器を用する教育的意味が教師によく検討されていないことによるといえる。たしかに「調理」ではウドン粉が一〜二グラム多くても少くても大した影響はないかもしれない。ただおおよそを計るためのみに計量器を使うのだろう。だから計量器の針が0ポイントから一〜二グラムずれていてもかまわないし、そのときどきに計ればよいので、皿の上にガチャンと物をのせてもかまわないような指導も大人におこなわれるのであろう。子どもたちは、一方では理科や職業で計器の正しいあつかいを学習しながら、家庭の学習ではそれがこわされていく。これが教育的といえるだろうか。こうした事例はいくつもあげることができる。われわれは、家庭の学習を教育的に意味あるものにするためには、家庭の学習の性格にもとづき、一つ一つのプロジェクトについて、その教育的な意味をはっきりおさえなければならぬ。

三、指導要領の受けとめかたをめぐらる問題

職業・家庭科の混乱の原因を考えてみると、文部省から出される、不得要領な学習指導要領を受けとめる教師の側にも、その責があったといえないだろうか。

戦後においても、われわれ日本人には「長いものにはまかれる」「出るくぎは打たれる」といったあきらめの性格がまだ残存している。戦後の教育改革によって、教育の主権は教育の現場におかれ、文部省は教育の推進に奉仕するサービスマンとなったはずなのに、戦前と同じように、上にうけたまわり、これを遵守するという考え

かたが教育界から払拭されなかつた。もちろん日本の教育改革が占領政策によって「上からの民主化」という形をとり、GHQが占領政策を文部省を代行機関としておこなつたために、占領政策にたがわなからぬためには、文部省の意向をうかがわなければならなかつた点で、「上からの民主化」につきまとう矛盾はあつたとはいへ、教師の側にも、日本の教育の主権は教育の現場にあるとの確信のもとに子どもの幸福な成長のために日日の教育を自主的に考へて実践していくことに欠くる点が多かつたとはいへないだろう。それは文部省の御意見は？ 学習指導要領では、ということにたえず気をうばわれ、学習指導要領がこうなっているからということに、唯一のよりどころを求める傾向がなかつたわけではなかつた。ある教科書出版会社の営業部員の話によると、職業・家庭科の教科書の宣伝には、「文部省学習指導要領準拠」を大きくキャッチフレーズにしないと採扱にさしつかえるという。しかし他の教科ではこのキャッチフレーズを強調すると、それでは採用しないという教師も多いという。このことは他教科の教師にくらべて、職業・家庭科教師は一般的にいて、上の意見を絶対視する傾向の強いことをあらわしている一例ともいえよう。

しかし、中央産審の第一次建議以来、この教科に真剣にとりくむ教師も多くなり、自己の日日の教育実践をふまえて、この教科のありかたを自主的に究明していく傾向があらわれてきた。しかしこの傾向は全般的に見ると一般化していかないといえよう。われわれはよく子どもたちに問題解決の態度・創造力や民主的態度を養成することを教育の目標としてあげる。しかし教師がそうした態度をもって日日の教育実践にたずさわることなくして、どうして子どもたちだ

けに、そうした態度の養成ができようか。参考として出されている学習指導要領、文部省事務官の個々の意見を金科玉条として、それになんらの疑問も問題もたず、これを現場の教育実践にてらして教師相互に批判検討し、それを撰取していくことなくしては、今後もかわるであろう学習指導要領改訂のたびごとに、教師は右往左往することになるだろう。

たとえば、今度の改訂指導要領の受けとめかたにしても上から指示された学習指導要領や手引書のワクを絶対的なものとし、そのワクから一歩も離れないことに終始し、一つ一つの教材が、この教科の本来のねらいからどのような教育的意味をもつかを比較検討することを忘れ、○印であげられた教材は共通として絶対必要なものと頭からきめてしまう。たとえば電気分野で「電気器具」「屋内配線」が○印の教材として手引書にあげられると、電気分野の共通学習は、全国一律にこの教材をとりあげる。電気分野の技術学習として、中学校段階でとりあげるいくつかのプロジェクトについて、「基礎的技術」「社会経済的技術」「労働態度」の教育の面から比較検討して、電気分野の学習として、もっとも意味のあるものは何かを、教育実践にてらして究明することをしない。また、限られた時間の中でおこなう職業の学習において、木工の学習がどういう教育的意味をもつか、コンクリートや平板測量はどうか、他の分野のそれぞれのプロジェクトと比較するとき、どれをまずとりあげるかが、より教育的な意味をもつか、こうした検討がこれまでおこなわれず、単なる参考書にすぎない「学習書」のプロジェクトを絶対的自明的なこととして教育計画をたてて疑われない実情が多かつた。

四、高田集会和今後の課題

しかし、この三日間にわたる全国職業・家庭科研究大会は、以上のような一般的傾向を脱却し、一つ一つのプロジェクトの教育的な意味を検討し、もっとも意味のあるプロジェクトを選びだそうとした点において、職業・家庭科教育として、画期的な歴史的意義をもつ集会といえる。その討議の詳細な記録については、後日公刊されると思うのでここにはふれない。しかし、五つの分科会がそれぞれに、研究主題について熱心な討議をつづけ、問題の究明がなされたにかかわらず、今後に残された課題もいくつかあったといえよう。

たとえば家庭のプロジェクトについては、被服でブラウス・スカート・ストラップスは、しぼりしぼってこれだけは絶対必要と声高く叫んでも、その一つ一つのプロジェクトが教育的にどういう意味をもつかという分析となると、十分な説明がなされないままに終わった。こうした検討がなされないために、もり沢山なプロジェクトをかかえこんで、学習時間と設備の不足をかこっている。しかも、あれこれのプロジェクトに追いまわされた教育をうけた子どもたちの多くは、「家庭生活に適用する」なんらの基本的能力をも、えないままに社会生活におくりだされてしまう。つぎにあげる実例は、現在の中学校の家庭科教育を考えるうえで一つの参考となろう。

ある民主的な教育心理学者の家にきた女中さん。その女中さんは、中都市の産業教育指定校を出て、成績は中(家庭科も中)。指定校であるだけに、家庭の学習も、日本の学校の一般的なレベルからいうと、恵まれている。この女中さんの家事の処理能力——下着は流して洗うし、計器の取りあつかいもでたらめ。主人の都で女中さんに先に風呂に入ってもらって、後に入ってみると、風呂の中はアカで真白。風呂の中でアカをゴシゴシおとしたらし

い。来た当初は炊飯もできない。

もちろんこの例から家庭の学習全般を云々しようとするのではない。また、女中さんも中学校の家庭の学習で以上のようなことは、知識的にあるいは実習などでちょっとは教わったかもしれない。炊飯などはおそらくグループごとに実習したであろう(グループのリーダー格が中心に作業し、残りの普通児童以下は観察しているような形態で)。しかし、優等生をのぞく大多数の生徒たちがあれこれのプロジェクトにおいまわされて、基礎的能力をも身につけないままに学校を出てよいものだろうか。このことから、もっとも教育的に意味のあるプロジェクトを少数選んで「社会科学・自然科学の法則性を家庭生活に適用できるような能力」を生徒に身につけさせなければならぬ。ここでは家庭学習を例としてふれたが職業についても同様である。

五、むすび

われわれは、この大会の集団思考の経験を生かし、今後、一つの教材の意味をたしかめ、比較検討し、つぎの集會にその研究成果をもちよることにしよう。そうしたつみあげによって、職業・家庭科教育は確固たるものとなるであろう。

(高田集會での講演要旨)

清原道寿著 教育原理—産業教育の理解のために—

当連盟宛に前金で申しこまれば、定価三百円の二割引(二百四十円)、送料当方負担でおとりつぎします。

討議のあらまし

第一分科会

第一日および第二日のはじめ一時間は予定された分科会での研究発表をきいたうえで、問題を整理してかかろうという意図のようであった。その意図は大体うまくいった。第一群は中村氏の発表を、第二群は杉田氏の発表を軸に討議を展開するメドがついたからである。

討議段階は、長谷川講師の主題確認のための補足的説明にはじまった。まず第一群についての中村氏の発表要旨が再述され、自然科学的原理・法則（このばあい主として植物生理の）を生産に意識的に適用させていくことの重要さが強調された。これにたいして、二

・三人の人から、農業的分野では技術の学習というよりも態度の育成に重きをおき、生命体の愛育・持続的勤労の態度を養うことが必要、たとの反対論がでた。この対立をめぐって論議は展開した。便所のくみとりや草とりの仕事の意義、働くよろこびを味あわせ育てるための結果重視論、多収獲論などが吟味されたりした。結局、日本農業の問題点の究明から、もっと農業のしごとが合理化され、計画化されることの必要が承認され、そのために中村氏の主張がしだいに支持された。しかし現実の条件におけるこの分野の学習の困難さが種種とりあげられ、第二群とは異なった基礎技術学習の問題が伏在していることが感じられた。

第二日の午後は杉田氏の発表を手がかりにして討議が展開された。おもな論点は、製図教材としてはどのようなものが妥当か、製図

と金工との関連いかん、建設分野の教材はとり上げる要ありや、機械分野の学習にはどのような教材がよいか、などであった。論議の中に、建設分野をとる、とらないは問題ではない、近代産業の特徴としての方法の正確さと互換性を学習させ、しかも流れ作業方式がとれるので、木材加工の机、こしかけ製作をとりあげている、という主張も出ていた。しかしこれはもう一歩立入って、近代産業の特長を学ばせるのに木材加工がベストであるかどうか問題とされるべきだろう。機械分野の教材として、ミシン、自動車、モーターバイクなどが例としてとり上げられ、相互に比較考量されていったが、討議人員過多のせいかつつ込み十分とはいえなかった。最後にオペレーション（分析された）と基礎的技術とは一致するものかの問いが出された。ジョブ・アナリシスの真の意義・役割について一般にまだはつきりした理解がいきわたっていないことを示すものであろう。

第三群は具体的にそろばん学習の意味を通じて性格論議が行われた。これは直接役立つからというのでなく、現状としては一般教養の意味をもつから行うのであり、せん択、クラブでの取扱いをするものが支配的であった

ように思う。結局、この群は他の群の技術学習を強力におしすすめていく基本となるものつまり物の生産だけでは近代的な人間は形成されない。たとえばコストの問題など、したがって企画・経営・能率などについての学習が重要だと主張が出たが、これだと流通活動の基礎的理解や消費活動の面がネグレクトされることになるが、この辺の論議は十分つくされなかった。

第六群については、教科の性格・目標についての共通認識にしたがってすじ道だて、要点を整理すべきこと、他の群の学習の発展として学ばるべきことが確認された。この他第四群・第五群などへの要望なども出されたが時間不足でつっ込みはなされなかった。

十分な実践経歴と研修をつんだメンバーが多く、討議は大体効果的にすすめられたが、メンバー過多からくるつっ込み不足はいかんともできなかった。(後藤)

第二分科会

ともかく百名以上の参加者からなる分科会

では、「教材を厳選する」という本大会の主題を、どれだけ集団討議の中で深められ確めることができるかは、技術的にいってものはじめから容易なことではなかった。三日間にわたる討議から、参加者全員が共通にもちあえる「教材を厳選する」ばあいの意味・方法・視点がみちびきだされたならば、本大会の意義は十分にあったものといえよう。

第二分科会発表報告の特長は、テーマが「改訂指導要領にもとづく」教育計画という性格で一貫していた。ある発表者は「改訂指導要領を忠実に守った」といい、質疑にたいする応答にも再三「それは指導要領にない」という封じ手が使われて、かならずしも論議は十分な発展をみることができなかった。新指導要領にもとづいた教育計画を実践してみた結果、どういう新しい問題・疑問・障害が生じてきたかは、ほとんどあきらかにされなかった。

二日目、吉田講師から「ここでは結論を急がず、徹底的に話しあってほしい」鈴木講師からは「教材を厳選する意味はどこにあるかそれがどういふ観点からなされなければならぬか。他教科関連の問題は、ただ上っすべりに終るのでなく真剣にとりくみたい。たと

えば理科ではこの点をもっと教えてほしいということをおも。家科の実践から跡づけてみる。以上の点を抽象的にでなく具体的に話しあいたい」と提案され、第一群から具体的な検討に入った。

第一群の仕事例としては、農耕Ⅱいね・むぎ・大豆、園芸Ⅱ草花・トマト・大根が選ばれたが、これらがどういう意味からとりあげられるかの理由としては、「草花は情操の面からとりあげたい」「いねは日本の主要食糧だから文句なしに課したい」と主張された程度で、その生産・科学・技術的な教育の視点からの掘りさげはあまりなされなかった。「いね」をめぐる論争も多少見られ、「日本の農業」全般にたいする社会科学的なメス入れの不足も反省指摘されたが、線香花火式に終ってしまった。しかし「農業生産の改善を志向しないで、第一群の指導は考えられない」ということだけは確認された。

第二群の仕事例は、共通必修として「機械の整備修理、製図の基礎、屋内配線と電気器具、ミシン、農機具、時計」がまず選定されたが、ここでは、

○第二群は男女の差別なく課すること

○基礎技術を抽出検討して系統的に整理する

こと

○施設設備・指導法の点からみて、グループ学習とすることがのぞましい。

○機械教材としては、第一に石油発動機、第二にミシン、第三にモーターバイクがとりあげられる

などが確認され、吉田講師の具体的な指導助言によってまとめられた。

最後に、カリキュラム作製のための時間数の配当をどうするかは、あきらかに本大会の主題からかけはなれていたにもかかわらず、前半ではそのことにだいぶ時間を費して、議事の進行と討議の発展をさまざまあげていた。しかし「形だけとのえばよい」式の研究会討論は、自主的な現場教師を主体とする集りでは、もうイミがないということが、本分科会でも二日目の午後からはつきりしてきたことはたいへんよかった。

第三分科会

参加者は北海道から九州までの全国にわたる九十余名。部門別に分かれご研究しあう予

定でしたが、講師の指導の下に研究したい意見が強く最後まで全体で討議しました。

具体的なプロジェクトについての検討までできませんでしたでしたが、教材選定の視点を確認して散会しました。経過は次のようでした。

○被服製作としての和服(単長着)の問題
単長着について参加者の現状は次のようでした。

- (1) 日本古来の着物であり、日本の住居との関連・父兄の要求とから手縫りする。
- (2) 和服・洋服という考えでなく衣服としての位置づけをして改良着をミシン縫りする。
- (3) 社会の生産発展による生活様式の変化、同時に生産技術は生活技術を変化させつつある現在、「家庭科を科学的なものに」という立場から必要なし。(ただし単長着の構造とき洗いは行う。)

一つの教材にたいしてもこれだけの立場からの発言でした。「学校教育として意味ある教材を厳選する」ことがこの大会の目的ではないか。(教材内容選定上の視点)

- (1) 家庭経営は全体の土台に位置づけるべきではないか。(教材内容選定上の視点)

つけて取扱う。

(2) 各プロジェクトで取扱った問題を総合的な知識・技術として理解させるために、身近な生活事実と結びつけて体系的に取扱う。

(3) 家庭を「消費単位」としてわくづけた消費者の立場からの知識・技術でなく、社会全体の生産条件からみわたされた家庭経営でなければならぬ。

(4) 家庭経営は、人間自らを生み育てることを目的とする。

○最後に(今後の課題)

和服の問題では、それぞれの別の立場からの話しあいだったことが問題をほりさげるところまでいかなかった原因でした。家庭経営の教材の選び方の話し合いの中で、どちらか一方の立場からだけでは教育的に意味のあるものを選ぶことはできないし、子どもたちに人間らしい生活をおしすすめるための力を与えることがおき忘れられてしまうことがわかりました。

- (1) 学校教育として意味のある教材としては、技術の基礎になるもの。
- (2) 自然科学・社会科学との関係上意味のあるもの。
- (3) 日本の家庭生活の課題解決にとって意味

のあるもの。
という内容を含むものが適切だということになりました。

この点を土台として基礎的な系統づけられたプロジェクトをつくり出すことがこれからの課題です。(清水)

第四分科会

五、六学級以下、したがって農山漁村の学校に勤務する職業科の教師一、二四名が、真剣な態度と悩み多い諸問題を胸に秘めて、新潟県指導主事柳沢講師、連盟より稲田講師を迎え、産業教育のベテラン大ブケ中学校長山本氏司会のもとに研究討議が進められた。初日に研究の目標として、教材選定の観点、立場の追求と、その教材をいかに教育計画に組み立てるかを協議題目に決定し、その日程を考えて初日は終わった。二日目より改訂案により自校の教科課題をいかに改訂したかについて新潟の斎藤氏より、つづいて地域構造の分析から、福島県の渡辺氏や、漁村の産業構造の脆弱性の中から中学校の職業科をとおして強化化し

ようとする福井の刀禰氏、地域開発を目指す福島県の渡辺氏、京都船南の悪条件において全群にわたる設備を食しながら、合理的に運用し血のするような努力をつづける世木氏などの報告を中心に、地元の樋口、渡辺両氏の計画立案の態度から討議は中核に入り、普通教科としての職業科の位置づけと、文部省の仕事例をしぼり、教材選定をいかなる観点からするかという方向に入った。食しい最底の設備を最高に活用し、各群の重要教材を合理的に利用しつつ、設備の増設についての苦心談に討議の花を咲かせ、長野の小山・北原両氏の飼育教材から乳牛飼育論議となり、その論議の中から教材選定の観点として、1可能性2技術のプロセスと科学的原理に基づく重要作業単位の分析結果、3国の課題と照合しつつ経済的理解をはかる、4生徒の心理段階や近親感などがあげられた。さらに連盟提案による一群の取扱いととして、農耕・園芸を統一化し、その中に含む重要作業単位の抽出による仕事のしぼりかたについてと教材の取扱いは方の観点を明確化した。つづいて稲田講師よりラジオ教材取扱いの具体例から二群教材選定の立場についての説明があり、機械教材について、二分科会講師群馬大吉田元氏により

機械機能分析から、ミシン、エンヂンなどの教材選定の具体的立場の説明があった。それにつづいて種種討議の結果、教科の性格、目標から十分教材の技術系列や、指導要素の重要なものより整理し、仕事を少なくしつつ、各群にわたる教材を基本的な技術と照合しつつ前述の条件とも合致するように教材を整理ししっかりした指導の観点を見出しつつ生徒の幸福を願う教育を推進するという一応の結論を見出した。なお、共通外の教材と地域性との問題や、選択コースの問題が、この分科会の会員の大きな悩みとして流れていたようであるが現場がどこも特殊条件のため、共通の話題も少なく論議の中心とはならなかった。

しかし学習指導要領の批判や、教材選定の立場からと、生徒の将来がいずれも近代産業社会に進出する生徒であることの理解など、全般の討議を通してのおのおのが暗黙のうちに研究の方向は見いだされたようで、それは夜の宿舎での討議の中にもうかがわれた。三群およびその教育計画については、新潟の石本氏や二、三の者から発表があったが、時間切れのため討議は十分になされなかった。

(草山)

第五分科会

参加者九十名をこえる盛況で、第五分科会

も終始熱心な討議がなされました。第一日は自己紹介、講師の挨拶の後、司会補助者より協議の方向づけとして、(1)巖山漁村における教育内容、教育計画、(2)どんな教材を選定すべきか、すぐ明日の仕事に役立つものを見出したいこと、(3)第五群を中心としてまとめたいこと、(4)六学級を想定して話し合いを進めたいという提案がなされました。

必修ではどのくらいまでやらなければならぬかということから、まず指導実時間数について、実態を発表しあい、週時間四時間、週数三五週不授業数二〇時間、年間授業時間数三六〇時間とおさえました。三日間で教材内容の精案を表に記入し、加削訂正してみようと小グループに分れて、研究を進める計画がなされたが、これは遂にそこまでの運びにはなりませんでした。この題目では、結論までもってゆくことは、ムリなように思われませんでした。

二日目は、司会者側のはからいで全体発表の大阪代表中島先生、新潟代表上村先生への質疑応答の時間をもつていただいたり、第三分科会発表者保倉先生の研究発表をしていただいたり、好意ある計画で、うるどころの多かったことを感謝しております。

中島先生からは、衣生活よりも食生活に指導の重点をおいていられること、職・家科が全部指導できるよう研習していられること、ミシンの二群の取扱い等について御説明をいただき、校内の研究態勢のとのつていことに感心しました。ついで新潟県の先生方、七氏の研究発表を中心に主として、被服・調理の教材について討議がもたれました。各先生の研究内容は、要約すべくありませんが人間形成をめざして課外活動に力をそそがれ地域と提携し力強い指導者として活躍し、施設設備の確保に骨身をおしませ、しかも綿密な計画のもとに努力され、食生活の実態調査に長い月日と、研修をつまみ、無から有を生みだしていく尊い努力の結晶ばかりで頭のさがる思いでした。発表された先生方がそれぞれ立派な成果と自信をえていられることと、小中高や横の連絡がよくもたれて、研究が進められていることは、羨ましい程でした。三

日目は、問題を調理の教材内容のみにしぼり指導回数は十回〜十二回ぐらいはやりたい。

教材選定の観点は、(1)栄養学的観点から、正しい考え方のなされているもの、(2)調理手法的観点から、なるべく多くの手法がとりあげられること、(3)社会科学的観点から、家庭生活における人間関係の民主化・生活様式の合理化と結びつく内容等話しあわれましたが、このことだけでも、これから私どもの研究の道のかなかなか容易でないことを感じました。

(若田)

近刊予告

産業教育研究連盟編

高田集会の成果と

今後の課題(仮題)

今夏三日間にわたり、高田市で開かれた職業・家庭科研究大会は、現場教師の自主的な研究集会として、この教科の発展にとって画期的なものであった。当連盟では、この大会の集団思考の成果と今後に残された課題をまとめて刊行するために、鋭意編集集中である。御期待を乞う。

大会をかえりみて

林 勇

「現場教師のなげき（この教育のむずかしさ施設の困難、他教科教員の協力等）をしこりにしてしまわぬために、相互に研究しあい励ましあう機会をもちたい。」また「研究会とはいつも余分な行事が多すぎて、お祭りのな研究会になりがちである。もっと実質的にじっくりと研究討議ができないものか」こうした現場教師の発言を思いかえしながら、なんとか中学校創設十周年記念事業として、ふさわしい実質的な職業・家庭科の研究大会にしたいと、企画、研究専門委員会で準備をすすめたのは、昨年の十二月頃であったか。

以来高田市十一カ校の職家主任を中心とする十五人の専門委員は、本研究大会推進のために、ほんとうに和気あいあい、一体となつて頑張ってきた。毎日の実践から浮き上らないうようにと、会議といえれば必ず土曜の午後にもち、「土曜日会議といえれば全国職家だ」また「全国職家か」といわれて……、ほんと

うによく会合し、話しあい、研究討論し、励ましあってやってきた。一つの目的に向つてみんな協力して仕事をするということは、こんなに楽しいものであったかと思つづく感じ、大会を終つて話しあっている。

主催が市中学校長会という関係上、どんな小さいことでも、十一カ校の皆がよつて話しあい、討議の上で決定されるといふ、それだけに手数と苦勞があつたけれども、今のべた市内の職家の先生方同志の楽しい結びつきができたことは、地元として本大会の何よりの収穫であつた。

× ×
とにかく本大会推進は、高田市中学校長会・市教頭会・市職家主任会といった三本の柱によつてささえられ、その他の役員および会場校大町中学の先生方の援助によつて大会は運営されてきた。

全く協力の力によつてこそこの大会がなし

えたのだといつてよい。

企画・指揮・まとめをする総務はさることながら、渉外部の宿舎設営、厚生部の食堂設営、観光案内、会場校の会場準備、分科会設営部の座席表作製等、どれ一つをみてもたいへんな苦勞であつた。そして縁の下の力持ちである役目をそれに、苦情一ついわず果して下さる。これらの蔭の力があつたからこそ、あの大会もなしえたのである。

× ×
五百数十人の参加者……。こんなに大勢の仲間たちが集まるとは、だれが考えていたろうか？ 職・家第一回目の全国大会である。しかも夏休み中の暑い最中、事務局をおおせつかった連中は「多くみて四百人に達したら成功だ」と。——要項・資料それでもと五〇〇部を用意しておいたが——それも足りなきたいへん御迷惑をかけた会員も多く出た。……（誠に申訳なくここにおわびする次第である）ともあれ、遠く北海道・九州から集まった五百人の仲間が、この第一回の結びつきを大事にして、ほんとうの教育実践を一步掘り下げ、それをひろげて第二回へと発展させていく……。この可能性を互いに認めあえたものと信じている。

× ×
今大会をふりかえって、もつとも残念だったことは研究のつみ上げの方法研究が不十分であったことである。五十名近くの研究発表者の援助をえながら、本大会の目的である教材の厳選という内容にあまり突き入ることができなかった。

準備があまりに事務的すぎて、何をどのよう
に研究するかということより、大会をどう
運営するかということに多くのエネルギーが
使われすぎたようである。分科会の設定もあ
まりにも機械的にすぎ、全体としてのまとま
りを考えなかったことは全くの研究不足であ
った。分科会のとり方に問題はあったにして
も、率直にいつて各分科会が、それぞれに一
応の成果をあげていながらも、大会全体とし
てまとまった研究の成果をあげえなかったこ
とは、やはりつっこんだ討論のなしえなかつ
た準備の不十分さに原因があるといえよう。
誠に恐縮。

× ×
大会の評価は、集まった人数や・人のうわ
さ(それも思いつきの)だけでは何ともいえ
ない。

よかれ悪しかれ、この大会の結果が、第二

回、第三回の大会へうけつがれ、どう発展し
ていくかによつてはじめて、本大会の評価が
なしえるものと思う。

とにかくボタンをお渡しする。どなたか受
とつていただきたい。一年に一回全国の仲間
たちがよつて日日の教育実践を語りあう結
びの機会をもちたい。こうした世話役は苦
しいことではあるが、ぜひお願いしたい。

(大会運営委員)

お・し・ら・せ

九月の公開研究会は、左記の通り開き
ます。会員たるを問わず、ひろく関心あ
るみなさんの御参加をお待ちします。

。日時 九月二日(土) 三時半

。所 国学院大学教育学研究室

(渋谷駅青山口、日赤行都バス国

学院大学下車)

。テーマ 第一群の教材について

。発表者 草山貞胤

発表後、ひろく討論研究にはいります。
なお研究会について御疑問の点があり
ましたら研究部あて御一報ください。

もっと子どもをみつめよう

職・家科の研究会に出席して、いつも
さびしく感じることは、子どもの問題が
全然とっていいくらいでてこないこと
現場の教師である私たちは、施設設備
や、二群の教材はなになにか、整備修
理などの検討もたいせつだが、それとも
う一つ、子どもについてもっと具体的に
話しあうべきではないか。子どもたちの
興味や関心、理解の度合を単に統計的処
理によつて理解するだけでなく、毎日の
教室や作業場での子どもたちの活動や彼
らの疑問や言い分、考え方をとりあげて
問題とし、そういう話しあいの中で施設
設備や教材や関連教科の問題を検討して
いったら、私たちの研究会は巾と深さと
結びつきがましてくるのでないか。

現状の職・家科は子どもへの働きかけ
を積極的に行っているとは思えない。私た
ちは職・家科の窓を通して子どもたちの
動きをもっとよくみつめ、それをつかん
でいく仕事が必要ではないかと思う。

— 一読者より —

新指導要領をどう受けとめるか

むすび

——三十二年度職・家科教育計画の留意点——

長谷川 淳

四月号以来、文部省の解説資料と、われわれのがわからの批判、提案を重ねてきたが、その間に新指導要領は「新」でなくなっている。ここで最後に、ぜんたいを通したむすびを固め、すでに生きて働いている職家科教育に、あらためてたしかな骨格をつけておきたいと思う。

（編集部）

最近の科学や生産技術の発達は、いうまでもなくその担い手である科学者・技術者の教育に依存するところが大きい。原子力やオートメーション等の最近の技術革新の時代に対応して、これからの技術教育を、量的に拡充しまたそれ以上に質的に高めようとするのが世界各国の教育政策の中心課題になっている。生産を高め、重労働の機械化・自動化によって肉体労働と精神労働の対立をなくし、農業の機械化によって農業と工業との対立をなくし、国民の技術的・文化的水準を高めることを目的としているソヴェトの数次にわた

る五カ年計画の成果、特に第二次大戦後の、第五次五カ年計画の成果は、アメリカやイギリス等の資本主義国に驚異と焦燥とを与えている。それは、自然および社会を認識する力をそなえ人間の利益になるように世界をつくりかえていくことができる全面的に発達した人間をつくるという教育を単なる宣伝ではなく、実行をもって示しているからである。このような教育、特に総合技術教育が、国の五カ年計画の一部として実施の計画にのせられるまでには、教師、教育学者、専門家たちの協力による実践と大衆的な討議と理論的な検

討によって支えられていることはいうまでもない。

イギリス、アメリカ等の先進資本主義国は生産技術の水準を高め技術の革新に対応していくために、技術教育の内容と方法、教育政策、諸外国の成果等について、学者専門家教師教師を多数動員して調査研究し、最近その具体的な政策を発表している。特にアメリカにおけるソヴェト研究の成果は、ソヴェトにおける現状を明らかにして資本主義国に大きな衝撃を与え、アメリカのソヴェト研究の組織や活動そのものがまた、イギリスに大きな刺激を与えている。そしてイギリスは昨年二月に、技術教育拡充に関する五カ年計画を発表し、アイゼンハワー大統領は、科学者技術者養成に関する国家委員会を任命している。

いまは文部大輔や文部卿はいないが、明治四年（一九七一年）に設置された時の名称そのままに、文部省があり、現在霞ヶ園の一角に、不整形ではあるが五角形の建物がその威容をほこっている。この建物の四階の雲の上で、職業教育の構想がねられ、職業・家庭科の指導要領がつくられている。自ら架設した鉄のカーテンによってソヴェトからの情報を

さきぎっている。アメリカからは、技術の成果やで、き上った大物は入ってくるが、その物を生むにいたった経過やその基礎である技術教育の内容や方法は輸入されない。イギリスの技術教育白書は発表後一年にしてやっと問題にされ出している。(しかしソヴェトの教育は国家が統制しているそうだから、イギリスは複線型の学校制度をとっているそうだから、フランスでは数学の時間数は少いとかという情報はよく知られている。)

国情がちがう諸外国の技術教育の成果は、うけいれることができないものとして目をうつり、明治以来終戦までの実業教育の成果に限りない郷愁をいだきながら、戦後六カ年限り思索した結果をまとめたのが、学習指導要領職業・家庭科編昭和二十六年版である。これは全国の職業科の教師と、この教育をうける子どもたち、教育学者たちを驚かすに十分であった。この学習指導要領は、子どもたちの全面的な発達に役立つどころか、そのエネルギーをおさえつけ、すりへらすだけにしか役立たず、全国の教師はその改訂を要望した。中央産業教育審議会においても放置できず、昭和二十八年に改正のための建議を提案した。しかし、当局はこれを無視し、沈黙し

た。審議会は一年半後にかさねて第二次の建議を出した。当局は世論にさらうことはできず、ようやく改正にふみきった。全国の教師はそれを期待した。昨年五月には、本年度から実施される学習指導要領の改訂版を出した。これはわれわれ教師と、われわれがその成長発達をもっともねがう子どもたちをなやましづづけてきた悪名高き昭和二十六年度版を改訂したものである。しかしこれは価格が安いこと(四円、タバコ一本のねだん)と、退屈な文章を読むわづらわしさを減らしたところを除けば、本質的に旧版と何ら変るところがないばかりか、旧版のもつ本質を一そう鮮明にしたものであり、それに規準性をもたせて拘束をつよめたものであり、「試案」という文字が消されている。次いで本年四月に、学習指導要領の「趣旨の周知徹底をはかるとともに、各学校においてこの教科の指導を計画し、実施する場合の参考に供するため」に「中学校職業・家庭科学習指導書」を発行している。

× × ×

旧版新版および学習指導を通じてその意図するところのこの教科の目標は何か。それは生産技術ではなく「実生活の仕事」を学ばせ

るものであり、自然科学的な基礎をもった技術ではなく、経験的技能に習熟させるものであり、広く社会に眼を開かせるのではなく、「地域社会」に閉じこめ「実生活」の中に没入させるものであり、未分化な生活そのものを「単元学習」させ、窮極において、勤労愛好の精神をかん養するを本旨とするものである。

改訂版においては、旧版がその序文のなかでたとえ形式的であるにせよわれわれに求めていた批判をおさえ、規準性を強化し、学習指導要領の含む意図をいっそう強めている。分量をうすくしたことは、拘束の度合いを減じたのではなく、規準性のある「内容を厳選し」(まえがきのことば)分量とは逆に、何

倍かの力をもって拘束性を強くしたことになる。そのまえがきに述べられている改訂の趣旨の「指導計画を立てやすくした」ということは、われわれが自主的に教育計画を立てようとする場合のゆとりを少くしようとすることを意図するものである。この計画を一そうたてやすくするための参考資料として、レディ・メードの計画を提供しているのが「学習指導書」である。また、「内容を厳選して、基礎的なものが身につくようにした」ことは

とともに、実際の作業や仕事を分析し総合して一般的な法則を見出させ、その法則を技術の習得によって一そう質的に高めるようにしなければならぬ。学習指導要領に例示されている仕事、あるいは現在実践されている仕事は、ただ単なる手の運動の反復や経験的作業ではないか。現実のおくれた職場や家庭の仕事に順応させるような経験を与えてはいないか。等を一つ一つの作業について検討し、数学や理科の原理を基礎にもち、それが応用されているような仕事、さらに他の教科と関連のある教材を残して、他のものを除いて整理することを第一に着手しよう。これが教育内容の質を高めるための第一歩であり、これによってはじめて普通教科の中に正当な場所をしめることが可能になる。

この教科はまた、基本的な労働用具や材料の技術的特性を理解させ、手や機械による労働のプロセスを理解させるものである。そのためには、技術の系統性および技術と技術学の法則性を骨格とした学習の方法がとられなければならない。したがって教材を整理する場合に次に考えなければならないことは、教材に系統性を持たせることである。このような系統性をもった教材の学習によってはじめ

て、自然や社会の真実を追求し、生産や生活の問題を処理して行く能力が養われ、創造性をもった子どもを育てることができる。

この教科において労働を基礎として成り立っている社会的諸関係を理解させ、生産と労働との関係、生産の場における人間関係の真実、技術や労働が尊重される社会について眼をひらかせ、また家庭における人間関係のゆがみや矛盾に眼をひらかせ、それらの諸問題の解決に対して希望と確信とを与えて行くためには、他教科特に社会科と密接な関連をもたなければならぬ。したがって教材の整理に当って、社会科と関連し、これらの問題の解決に役立つ教材を選ぶこと、そしてまた、現代の切実な緊急な問題に連なる教材を選ぶことが必要である。

教材を整理し系統性をうち立てるためにはこの教材の目標が明かにされ、方法上の原則が定められなければならないが、目標や方法についての原則が、われわれの討議によって確立されるまでの手続として、以上のような教材の整理をおこない、その過程を通して、この教材の目標を明かにしていこう。

× × ×
学校教育はいうまでもなく、教師と子ども

の間のいとなみであって、法律や行政の担当者と教師または子どもとの間のいとなみではない。したがって教育のための具体的な計画の作成は教師の手をまわってはじめて可能である。そうしてまた学習指導要領がどれだけ日の実践をさまたげ、したがってまたどれだけ子どもの成長をおさええているかを知っているのも教師である。学習指導要領の拘束のもとでそれをのりこえて自主的な教育計画をつくるための一つの手がかりとして、教材を整理するという手順を推進していこう。この方法はすでに数学や理科において試みられ成功している。どんな方法をとるにしても、学校の中で、同じ教科の教師や他教科の教師と協力組織をつくり、さらに村や町や郡の研究組織まで発展させ、教育研究の組織化をはかることが大切である。

入会のおすすめ!

本連盟の主旨に賛同される方々の入会をお待ちします。

入会御希望の方は、氏名、住所に会費をそえてお申しこみください。

改訂学習指導要領の趣旨を

どのように解釈し教育計画をたてたか

大垣内 重男

一、もつとも身近かな社会的環境

ニシンで開けリンゴで有名になった余市は、気候地形に恵まれ、不漁凶作の年といっても、その日暮しには事欠かない天恵の地である。春の「リンゴ袋掛け」から冬の「スケソ加工」にわたる季節労働者の需要をみたす仕事があつて、適当に働いていれば小金が入つて、最低限の生活を営むことができるのである。工業などの設置条件がある程度整つていながらも、発展がみられないのは、一般に住民が経済力に乏しく、協同して投資する見通しをもたず、利己的で部落意識が強く、封建制に慣らされてきているからではなからうか。

二、現下日本の国情の把握

このような事情はひとり余市だけではなく、かたちこそ変れ、国全体を通して考えられる問題であつた。敗戦後の日本の姿は要約すると、植民地的色彩が濃く、外面は派手でも、生活内容は充ちていない。国民経済は一部の資本家に牛耳られ、中小企業者・農漁民の生活は極度にゆがめられ、二三男の問題はますます深刻化し、そ

の対策も口先だけのものとなつてゐる。島国日本の産業は食糧をのぞき、自国内だけでは絶対に解決できるものではなく、海外に求めなければならぬ。この際日本人の特技を生かした産業によつて、優秀品を輸出し、国際信用を高めることがたいせつであり、一刻もはやく植民地的性格から脱却し、真の独立をはからなければならぬ。民族意識に燃えて近代化に努力している近隣のアジア諸国と親交を深め、各国の開発計画に則して提携していくことが緊要でありこれに基づいて輸出品の生産や技術の交流を果していかなければならない。

三、本教科のおかれている地位

こう考えてくると、自然にまかせその恩恵のみにする原始産業や、機械の動きにあわせた働きしかできない職業人を養成する教育が本教科の前身である職業科であつたし、それとともに封建的家族制度の倫理に基づく主婦のための準備教育であつた家事科の教育が時代の進展にともない植民地的化粧をほどこして、職業・家庭科は発足したと考へてよいだろう。

自然条件や機械に使われやすい人間をつくることは、徒弟教育で

あり、職業準備の型にはめた、いわゆる「コケシづくり」の学習であつて、それは私たちの考えている人間陶冶の教育ではない。コケシ教育から脱却した生産力豊かな人間形成こそが本教科のねらいではなからうか。

四、改訂指導要領の把握の仕方

改訂指導要領は二六年版の再認識の上になつてゐるというが、私たちはそうは受けとつていない。民主的な教育の立場からいへば、本教科の性格は広い視野になつて、われわれの生活改善向上をはかるため、技術面を中心に経済的社会的な面を学習する教科であつて職業の準備教育でなく、一般教養としての教育である。したがつて共通学習を主体としながら、性別・環境など学習の導入を容易にするため、その特色を認めている。また職業指導の啓発的経験には役だが、職業指導を主体とした教科ではない。

各群を概括してみると、第一群は生産技術を通して、生産と科学生産と経済との関係を理解し、作物家畜をそだてることによつて観察力判断力を養う。伝習技能教育を拒否するとともに、動力機械化への改善と経営能力の向上による経済生活の改善がそのねらいである。第二群は工業生産教育を通じて、社会的経済的意義を理解させ技術的実践的な態度習慣を養うので、生産方式や管理の効率化と生活の科学化がそのねらいである。第三群は経営、管理、事務面の理解により、生活の合理化の能力態度を養うので、商人の立場ではなく、一般人・消費者としてであり、これを学ぶことにより国民生活や経済を改善向上することにある。第四群については、食生活の改善行上のため、水産関係の知識理解と技術の習得にあるが、これに

よつて家庭生活の充実向上に役立て、第五群は家庭生活活動の経験を通じて必要な知識技能を習得させ、その改善向上をはかる能力態度の養成にあつて、個人、家庭、社会生活の向上がねらいである。第六群は職業的発達に必要な社会的経済的知識理解にあつて、進路選択の能力をつけさせるに役だてる。

要するに本教科は実践的活動を通して、社会的経済的技術的の各方面からの学習を担当して、一般教養を高めることにより、われわれの職業生活や、家庭生活改善向上に役だつたものでなければならぬ。あくまで民主社会における人間形成がそのねらいであつて、コケシづくりの教育に陥つてはならない。

五、使用教科書の選定

本教科の運営にあたり、教科書の役割は大きい。現在これが唯一の手引書であり、教育計画実施に際し重要な基礎資料となる。ここに教科書の重要性があり、その採択には慎重をきさなければならぬ。一見どの教科書も検定済であり、取材も似たり寄つたりであるが、詳細に検討をすすめてみると、一つの出版社のものでも、第二群はよいが第五群がよくないなどあつて、その傾向を大別すると、ただ仕事を雑然とならべて教材を豊富にしているものと、基礎技術を中心として実践活動に便利であり、理論が裏付けされているものがある。また環境・性別を考へてか、都鄙別男女別となっているものもあるが、農村でも研究が進んでいる学校では都市向が使用されてゐる。私たちの町では、農漁民の生活改善向上と生徒の進路動向から勘案し、教科書選定の条件に照らして、立川図書出版の「都市向男女新職業・家庭」を採用してゐる。

実情や中味のない宣伝に迷わされて採用するの愚はあらため、少くとも三、四社のものを比較検討して、その学校の教育計画にマッチしたものを採用しなければならないと思う。

六、サークルによる（共同研究）

つぎに本教科の教育計画とその実施についてであるが、他教科と連って何かの参考書を抜き書きして立案したのでは使えないものにならない。本教科担当者のまず第一に困る問題はこの教育計画の立案であらう。

私たちの学校では、昭和二十七年に職・家科の教師全員で、二六年版指導要領の趣旨に鑑み、あらためて地域の実態に基づく教育のあり方を中心に検討し、計画を立案したが、一校だけの研究では自信をもてないということから、私たちは後志職・家研究会に積極的に参加し、翌二八年には町内と近隣三村の中学校とで北後志職・家研究会を組織し、さらに町内小・中学校の連絡を密にし、サークル活動を突のあるものにしようとして、職・家科教員を結集して、余市町職業・家庭科研修会が誕生した。二九年には、今までの反省と職・家科の基本的なあり方を検討し、三〇年には、第一・二次建議の検討、教科書の比較分析を試み、単元基底表を作成し、三一年には改訂指導要領の趣旨を教育の実践計画にどう生かしたらよいか、特に共通必修として考えられた教育内容を検討し、本年度においては改訂指導要領による計画と実践ということで、職・家科の教育計画資料作成に着手、さらに学習展開の実践について研究を重ねることになっている。

このような共同研究をすすめていくことによって、指導要領にた

いし、つぎつぎと疑問がでてきた。

七、指導要領にたいする疑問点

学習領域を決定するばあい、各群との関連をはかり、無益な重複をさげその分野に適合するよう厳選し一貫した方針のもとに立案すべきであると指導書にあるが、それなら第五群の衣・食・住の各項目、第五群の家庭経済と第三群の記帳、第二群の建築製図と第五群の住生活と設備などもつと項目を調整できないものか。共通必修の項目として○印のつけ方、各群最低三五時間に制限したこと、水産関係を共通にいれなかつたこと、教時は二四〇時間を標準として例をかかげたこと、実践的活動を主とすることでありながら○印の項目の内容はむしろ座学でも可能なものが多いことの矛盾、女子を対象として第五群の例だけ二四〇時間一つにしたこと、関連とか融合のし方の問題、第六群の考え方特に総体的な面から最低三五時間とつたこと、社会科との関連および第六群の内容……等について、どうしてそうなつたかの理由やどうしてそうなのかという疑問がいろいろと生じてきた。

八、教材選択にたいする考え方

中学校における本教科は、従来の職業科や家事科のような考え方でなく、あくまで基礎的な一般教養を身につけさせる教育であつて第一群を通して農業技術を会得したり、第二群を通して近代工業生産技術の初歩段階を究めたりするのが目的ではない。したがって性別や環境にとらわれず共通に学習すべきである。

私たち余市の職・家科サークルでは、地域の実態、生徒の動向等

をよく把握し、指導要領の趣旨を尊重しながら、教育理想の実現化をはかるべく立案実施している。立案に際しては、各群最低三五時間と○印の教育内容には必ずふれているが、最低三五時間は全部○印の内容のものでなければならぬと限定せず、各項目についての重要性ということを十分勘案してとりいれるようにした。性別・環境などの特色を指導書のように強くうちだすことをさけ、つとめて共通な内容で学習できるように考えた。週の学習時数は他教科との均衡よりみて、指導要領の一般編が改訂されないかぎり、三一五時間しかとれない事情にある。都鄙を問わず、機械化電化の問題と経営技術の基礎をつくる意味から、第二・三群に重点をむけた。教師の能力、施設設備、父兄の理解協力などの条件によって相異はあるが、私たちはこの計画案を基準として、各校に適応した形において実施している。

九、む す び

現場の私たちは学習指導要領に準拠してあたらなければならぬが、しかしこれを無批判に自己流に解釈して盲従することは、良心的民主的な教師のとるべき態度ではない。教育のねらいを明確にかむには、個人研究に止ることなく、共同であらゆる角度から研究し、意見を交換しあうことによつて、いろいろな矛盾や問題を一つ一つ解決していくことであろう。継続的に共同研究することにより私たちの視野は広げられ、自信をもつことができ、お互いの信頼度が高まり、諸困難を克服して、民主的な教育理想実現のための活動が促進されると信じている。

終りに私たちのサークルである「余市町職業・家庭科研修会」の

本年度の活動とメンバーを紹介して、会員読者との交流をはかりたいとねがっている。

一、重点目標 (1)余市町職・家科教育計画資料の作成、(2)各単元の展開例およびその資料集成 (3)実技研修、特に指導法についての研修

二、研修計画(実施) 四月(本年度研修計画決定、教育計画の検討) 五月(教育計画の検討、資料編集作業の分担) 六月(資料印刷製本、管内職・家研究大会参加) 七月(管内初等中等教科別研究集会参加) 八月(全国職・家高田大会代表参加、ラジオ指導法) 九月(じゃがいも指導法、全道職・家旭川大会代表参加) 一〇月(食生活指導法、後志教研集会参加) 十一月(水産指導法) 一二月(珠算指導法) 一月(単元展開例資料の検討) 二月(教育計画資料成案編集)

三、会員伊藤登美香(西中)、猪股隆(旭中)、大垣内重男(東中)、室蘭・松山教研集会参加)、長田光男(西中校長、北後志サークル会長)、葛西ミサ(旭中)、笠谷侃弘(東中、本会長、札幌教研集会参加)、銀治誠二(旭中)、吉田美代(東中)、谷正好(旭中)、小樽・長野教研集会参加)、塚本慶子(東中)、永井よしの(黒川小、本会副会長)、工藤陽子(西中)、藤原政己(豊浜中)

(北海道余市町東中学校、余市町職・家科研修会員)

現場から連盟にのぞむもの

これからの研究・実践・組織

英一夫 藤田 柴田 清水 刀中 林保 本若 村田
 俊和 一尚 一郎 薫太郎 太咲子 和康 せつ三
 大浦山 小藤 佐塩 柴田 清水 刀中 林保 本若 村田

出席者（五十音順）

新潟県南魚沼郡塩沢中学校
 新潟県高田市新道中学校
 東京都江戸川区小岩第三中学校
 新潟大学教育学部附属長岡中学校
 信州大学教育学部附属長野中学校
 茨城県西茨城郡友部町穴戸中学校
 東京都立広尾高等学校
 福井県南条郡河野中学校
 大阪府枚方市第一中学校
 新潟県高田市大町中学校
 新潟市白新中学校
 日教組「教育情報」編集部
 埼玉県教育局指導課指導主事
 司会 産業教育研究連盟常任委員

連盟をよく知らなかった

司会 今晩はお疲れのところをどうも。くつろいでお話しあいをお願いしたいと思います。

さっそくですが、今後も連盟が現場の実践に、正しい役割りを果していくために、今までというものが欠けていたか、これからはどうしていかなければならないか、「教育と産業」についても、こうしてほしいとか、こうしなければダメだなどということについてみなさんからザックパランの御意見や御批判をいただきたいと思います。私たち編集部もこれを機会に「教育と産業」をもっとよくして、みなさんの実践にほんとうの正しい意味において、役だつようにしたいと考えています。

中島 私は今まで産教連の性格をよく知りませんでした。いろいろとウワサはきいてきましたが。

司会 いったいどんなウワサを。
 中島 あまりいいウワサではないんですよ。まあおいおい申しあげます（笑）。

司会 それで連盟の性格はおわかりになり

ましたか。

中島 ええ、少しずつね。

司会 ぜひわかってくださいよ（笑）なんていうのはいけないか。

刀福 ぼくは二八年頃、清原さんの教育原理を読んで、「教育と産業」のことを知った。この雑誌はいいですね。第二に安いこと（笑）そのつぎに読みやすいこと、薄いからね（笑）。その後各県でさかんに発表会があり、ぼくも出かけていって、清原さんや池田さんの話をきいているうちに、産教連に関心をもちはじめたんです。

高橋 産教連のあることはきいていたが、雑誌は書店にでてないし、住所もわからなかったの、それ程関心を寄せていませんでした。宣伝もあまりしてなかったでしょう。

司会 あまりどころか、全然してませんでした（笑）。なにしろ商売人は一人もいませんからね。今だってそうです。モウケるなんて、やりたくてもできる人は一人もない、この時代にあまりイバれた話じゃないでしょうがね。それなら経済的にラクなのかというと、とんでもない、もつともつと会員読者がふえなければ、赤字はうめられないので、実は今日も会場で、私たち編集部は入会のお

すすめ”を懸命にやっているわけなんです。もっとも現在民間の教育団体で、赤字でないところはないでしょうね。みんな苦しいことにかわりはないのですが、「日本の教育」にとつてかなしいことだと思えます。

塩沢 私は古くからの会員だが、この雑誌はお世辞でなく、ほんとうに役にたつ雑誌だと思つています。自分たちの実践をレポートにまとめる時には、とても参考になる。理論的にも高い水準をたもつていて、心強い気持ちになりますね。

上村 私は八月号を見ましてね、家庭科問題にも相当のスペースをとっているの、興味深く拝見したんです。西尾先生の御意見もいいし、伊藤先生の皮肉も面白いんですよ。家庭科をこういうふうに扱っている雑誌は他にないんじゃないかしら。これからもぜひ家庭科の問題をどんだんのせてください。

司会 ほめられると、つうれしくなつていい気持ちになつちゃうんですが、こちらでひとつ手きびしい御批判をいただきたいですな。

もっと役にたつものな

高橋 私はずっと本誌の愛読者ですが、は

つきりいって、私たちが毎日現場で子どもたちと接している具体的なナマの問題があまりでないように思えます。これではいけない。現場の実践をぜひのせてほしい。それに問題があったとしても、それはそれでかまわないから、ともかく真剣にとりくんでいる実践記録は貴重なものです。私たちはそういうものをもっと読んで考えなくてはと思つてます。

司会 その点は御指摘のとおりだと思えます。実は私たちもそうしたいと心がけているのですが、まだ力が足りなくて、なかなかそこまで行けない状況です。その点みなさんにもぜひ御協力ねがいたいと思えます。

中島 実は以前指定校になった時、校長から「教育と産業」をポイと示されて、「これを読んで研究しておくように」といわれたことを覚えています。その頃同僚の教師たちから、産教連は日経連と関係ある団体だと聞かされましたね(笑)日経連のお先棒をかつぐのでは私もたまらないからと思つて、ついそのままに忘れていました。

司会 それはどうも(笑)。エライことになつてしまったな。編集部もせいぜい心がけなければいけませんな(笑)。

林 //教育と産業”は指定校などで、自分たちの実践をまとめて理論づけをするばあいには、たいへん役にたつと思えますが、内容的にいつて、もっと理論と実践が結びついたものとならなければ、連盟も現場と結びつかないのではないかと思えます。たとえば「教材を厳選する」という問題一つをとつても、現場の私たちの考えることと連盟の考え方とは、ギャップが感じられますからね。

小山 //教育と産業は他社の雑誌とちがつて立派です。実際すぐれていますね。それだけにもっと要求をだすわけですが、

司会 お手やわらかに(笑)。

小山 ええ、わかっていますよ。それは本誌にプラス・アルファが一つほしいということなんです。理論と実際の間にもう一つ、なんというかな、なにかほしい気がしますね。私たちが指導してくれというのはないが。

刀禰 //教育と産業”には、高貴薬が多すぎる。頓服薬が全然ないね(笑)。

司会 そうなんだな。高貴薬といわれるとちょっとくすぐったいけど。

大浦 私たちとしては、もっと明日の実践にすぐ役だつものがほしいですね。現場のほとんどの教師は、本誌にそれをのぞんでいる

と思います。その点連盟編の「職業科指導事典」(国土社刊)はよくできています。これ一冊あれば、全部間にあいますからね(笑)。

柴田 私は加盟して間もないので、まだよくわからないが、内容はいままで私がみた雑誌のうちで、もっとも専門的だし、ユニークなところがある。私たちの現場の人間は理論的に貧困だから、確かな基礎理論だけは、やはり勉強して身につけなければならぬと思う。その意味から、私たちに役だつ内容も毎月盛りこんでほしい。

司会 リクツをいえば、「役だつ」という意味もいろいろにとれますね。商業主義一点張りの販売政策からいえば、「明日からすぐ役だつ」という特効薬的宣伝で、雑誌の内容も、理論や技術指導の系統性を無視して、いわんやその科学性や社会性などは問題とせず知識や指導法の「コマ切れ」で紙面を飾ってみせる手段をとるでしょうが、はつきりいって、そういうことは私たちにできることではないしね。かといって、正しく「実践に役だつ」ものでなければならぬことはいままでもないことだし、それは私たちが始終考えてはいるんです。

若田 「役だつ」ということでも、現場の

実践にどう役だつかということも問題ね。連盟としてはどうなんですか。そのへんのこと

は。
司会 私たちは、ただ「売らんがため」の仕事をしているわけではもちろんない、「教育と産業」がどんなに薄っぺらな雑誌でも、現場の実践を考えての教育活動の一貫としてやってきたんだし、これからもやっていくんだということだけはほんとうです。だからといって、資力があるわけではなし、やっぱり多くの会員読者がほしいことはほしい、仲間としてのね。現場の実践に明日からどうでもすぐ役にたつ、それだけの雑誌ならば、私たちの仕事の意味もないわけなんです。

小山 そういうものだけで、雑誌のスペース全部をみたせといっているのではないんだ。たとえば現在東京でやっている公開研究会ね、あの記事を一ページでも二ページでもいいから、毎号かならずのせるようにする。あるいはジョブ・シートみたいなものをのせるといいだろうと思うんです。

司会 ああ、それはできますね。どういうかたちでのせるかは考えることにして。さっそく、常任委員会にかけて、編集部でも考え

れとも相談してみます。研究部には長谷川・吉田・中村・稲田・草山さんなどのベテランがいるし、小山さんや清水さんも、たのめばいやといわない、協力してくれるでしょうしね(笑)。

小山 そいつはちよつと。まあね(笑)。

私たちの研究会をもとう

本田 卒直にぼくの意見をいわせてもらいますと、今年の日教組の研究集会をみますとまさに去年の連盟の夏期研究大会のセコハンを見せつけられた感じなんです。教研集会の職・家科は低調ですね。だから連盟としてはもっとやってもらわなければならぬと思っています。そこで連盟にのぞみたいのは、もっと現場の実践の中にかまえをつくるように努力すること、これは今までも意識としてはたえずもっていただろうが、実際にはあまりあらわれなかったように思えるんです。

よくいわれることなんですが、職・家科は他教科と大いに関連があるわけなんです。それなのに少しもその実を結んでいないのはどうしたわけなのかというと、それは他教科の教師との仲間づくりができてないからだと思ふんです。その点を連盟はもっとよく考え

るべきじゃないか。はっきりいって、「教育と産業」は現在他教科から完全に孤立している。職・家科オンリーの雑誌です。しかもその中で高踏理論が大半を占めていることも問題です。

全般的にいつて産教連的性格(?)というものがあって、それが強すぎる。かまへにも現場的な発想や感覚とはややずれた産教連的性格がでている、以上が遠慮なくいわせてもらったばかりの感想なんです。

司会 どうもきびしい御批判で。そういう点雑かに克服すべきことだと思っています。ただね。私たちがいつも気をつけなくてはと話しているのですが、職・家科はダメだ数学や理科はしっかりしてイイとか、連盟はダメだ、他の教育研究団体はイイというだけでは、日本の教育はもっともよくなりはしないと思う、セクト主義は打破しなければならぬ、他に色目を使ったり、卑屈な言動だけはつしみたいと思っています。職・家科のどこに問題があるか、連盟のどこに組織上の欠陥があるかは、どんな小さなことでもとりあげて考えていくつもりです。その点みなさんもしどしどつこんでください。

小山 私がさっきいった研究会のことだが

これはなるべく具体的にのせること、地方の会員はそれに参加できなくても、雑誌できつと読んでもらえると思う。だからあの公開研究会はどうしてもつづけていかなければいけないと思いますね。

司会 私たちもそう考えています。

清水 でもね、研究会はラクじゃないわ。エネルギーがいりますよ。私たちの家庭科研究会も村田先生から毎回宿題がだされたりしてね(笑)。

司会 ぼくじゃないですよ(笑)。実はぼくも一員として参加しているのですが、家庭科研究会はさかんでしてね。池田種子さん、清水さんや若田さん、それに和田さん(都立戸山高校)や西尾さん(埼玉県教育研究所)などが中心になって、小・中・高の家庭科の先生たちで、毎月二回の研究会をもっています。その第一回の発表を今日第三分科会で清水さんがやったわけです(本誌八月号掲載)。そのほかに連盟としては、小山さんがいわれたように、第一群と第二群関係の研究会を毎月定期的につづけています。その第一群については中村さん、第二群については稲田さんからそれぞれ発表したはずですよ。

清水 高校研究会などは、自主的な集りで

はないせいとか、みんなあまり真剣になれないようです。その点家庭研究会は男の村田先生や池田先生が一番熱心なので(笑) つい私たちもはりきってしまい、たいへん勉強になります。

保倉 東京の方はいいですね。地方ではそういう仕事をしてくれるリーダーの方がなかなかつかめないで困ります。今日も中島さんのお話をきいてうらやましくなりましたよ。

司会 もう仲間なんですから、今後はぜひいろいろと連絡しあってください。

中島 大阪府にも、四市研究会というのがあり、各分会にわかれて研究しているのですが、いつも職・家科部会を解散させようという声がよくでるんです。それも結局は適当な指導者が私たちの側にいないからではないかと考えています。

司会 指定校になると、さっき中島さんがいわれたようなかたちで、校長さん以下学、校ぐるみドッと加入してくるんですが、指定校の期限がきれると、ピタッと止めてしまうところが少くないんです。これでは私たちが何のために教育運動をしているのかわからなくなってしまう、考えこんじゃうんですが。連

盟の研究集会では、いつもこの問題が地方の仲間から指摘されて論議はされるんです。

若田 私も家庭科研究会に参加して勉強させてもらっています。他の研究会とちがって身が入りますね。やはり下から盛りあがった自主的なサークルでないといつづきしないんじゃないかしら。そういう研究会を連盟の委員も会員の私たちが心がけて、地方にたくさんつくる必要だね。そして私たちの研究会も、地方のみなさんやサークルとたえず連絡して、時にはこちらからでかけていくこともしたらどうでしょう。

司会 さあ、これはたいへんなことになった(笑)。

若田 それがほんとうよ。連盟の先生方だって、地方のどんな小さなサークルからでも来てほしいといわれたら、かならずでかけてほしいわね。

保倉 ぜひそうねがいたいわ。そのために私たちが仲間をつくって知りあうことね。

司会 現場でもかくほんとうに仲間として話しあえ、一生懸命やっている人と、一人でもいいから知りあうことじゃないですか。それが、さっき本田さんがいわれたように、職・家科の先生でなくたっていい、もちろん

職・家科の先生ならそれにこしたことはないけど。それに職業科と家庭科とがよく話しあえてないところだってまだあるんじゃないですか。

清水 これからは、会員名簿もおおいだされていくから、地方のみなさんともつながりをもてるのではないかしら。私たちもどんどん連絡しあわなければダメだと思うわね。

司会 たいへんがたいへん、お話しあいをお願いしてありがとうございます。昨年冬の熊谷市での座談会以来、これで二回目ですが今後ともどうぞよろしく。みなさんも御元気で。(八月七日夜、新潟県高田市T旅館にて)

「あとがき」座談会もつとたくさんの問題がだされて話しあわれたのですが、紙数の都合で割愛せざるをえませんでした。記録の責任は一切編集部にあります。おわびとともに一言おこわりします。なおみなさんのサークルでいろいろと話しあわれた座談会や対談をぜひ掲載させていただきたいと思えます。編集部宛御送りください。

八月の動き

○高田市の全国職家研大会に参加した連盟スタッフは、帰途妙高温泉に一泊。大会参加の反省と今後の活動について話しあいました。

○八月二〇日からワルシャで開かれた世界教員会議には、連盟に協力してくださいっている宮原誠一さんが日本代表の一人として参加。御健闘を祈っています。

○八月一二、一三日東京の南多摩郡高尾山で開かれた教科研全国集会の職家部会には、連盟から清水、村田、長谷川、清原さんが参加しました。

○研究部は八月三一日東京工大教育研究室で、今後の研究活動について具体的に検討打合せをしました。その成果はやがて本誌に反映されることと思えます。

○家庭科研究会は八月三一日国学院大教育研究室で開催。

○連盟が協力参加している「産業技術教育講座」は着々と進行中、第一回は一〇月の第三巻から配本の運びとなります。

各地のサークルや会員みなさんの動きを編集部までお知らせください。

製図の指導について

とき・七月六日

ところ・国学院大学教育学研究室

一、図法の指導について

製図の指導で、第一に当面する問題は、図法の指導をどうするかということである。第一学年の生徒に、しかも男女共通の指導内容の場合に、従来の教科書にあるような説明では、生徒も理解しにくいし、第一数学科では、第一角法の理論的な学習を、三学年にしていくのに、職家で、一年にもってくるのは、おかしいのではない。技術の系統化を叫ぶならば、まず技術の背後にある科学（数学と理科）との関連を考えなければならない。製図（ここでは機械製図）の基礎として、図法があり、これが、数学では三学年に、工科では一年から第一角法を学習するとなると……。しかも技術の系列として、最初に製図の学習を必要としている。この矛盾の解決策として、図法の原理は数学科で学習するのであるから、職家科ではもっと簡便な方法で、理解しやすい利用できる説明方法をとらなければならぬ（この説明方法について、話し合ったが、ここでは省略し、別の機会にゆずる）。こうすることによって、技術の系統を守りながら、科学との関連をもたせることができたわけである。

図法のこと、もう一つ(1)第三角法を中心に指導する（JISによる）場合と、(2)第一角法を先にし、第三角法はそれが理解できて

から指導する（従来の方法）(3)第三角法、第一角法を同時に指導する方法の三つがあるが、これをどうするか。これは前述の方法であれば、同時に指導してもさしつかえないという意見が多かった。

二、フリーハンドの是非

少ない時間で、製図の指導をする場合、方眼紙等を用いて、フリーハンドでやったらどうか。たしかに、フリーハンド法は、機械のスケッチや建築の平面計画などに利用されていて、大事な面もっている。しかし機械製図の基礎を学習するときは、別なねらいがあるのではないか。製図用具を用いることにより、正確で、しかも能率的な作業ができること、背写真など複写図の意義などの理解や、製図そのものの技術の習得ができるだろうか。

三、読図中心主義の是非

前項と関係して、男女共通学習内容の場合、読図だけで、製図学習を終了させてしまう方法をとっているある教科書がある。改訂指導要領の留意点にある他の分野に先行して、各種図面の読図があげられていて、工作図の製図は融合して学習させるとあることから、読図だけを共通にしたものであろうが、これは少々ナンセンスではないだろうか。製図したこともない、図面を使って工作したこともないものに、機械部品の工作図を説明しても、理解できないだろうし、理解の方法としても良い方法とはいえないであろう（字を数えるとき、読むことばかりで、書くことを教えなかったならば、どうであろうか）。

四、製図指導の系統について

前項でものべたように、製図とは、単に図を画くことではなくてその図面を使うものの立場になって、作図し、寸法その他の記入を行うもので、工作方法を考えないで画いた工作図はありえない。したがって基礎製図として、簡単な工作図までをふくめて考えた場合には、工作と関連をとって、指導する必要がある。これと同じ理由から、二年で金属加工をするならば、機械製図として、スケッチ（測定器を用いて機械部品のスケッチ）や機械要素（ボルト、ナットなど）の製図を、加工に先立って学習しておく必要が生じてくる。そしてこの技術の発展として、第三学年で建築技術と結びついた建築製図（間どりや住居の設備については、理科や第五群で学習している）の学習へと進むのが順序ではないだろうか。建築製図は第一角法で画くとはいうけれども、第三角法を加味した方法が行われているので、図法を十分使いこなせるようになってからでないとい混乱するおそれもある。

五、図工科や数学との関連について

図工科や数学科でも、製図をあつかっている。特に図工科の工作と結びついて製図があり、厳密に図工科と区別する理論的根拠は見出せない。職家の製図は、JIS製図通則により、図工科は、用器画による図学だと区別しても、図工科が工作をやる以上は、JISを無視した製図の指導は、できないであろう。図工科が造形的な美を追求しても、現実から遊離しない限り、職家科との関係をスッキリとさせることはできないであろう（この問題は将来の問題点とし

て、教科の立て直しをするとき、十分に整理してもらいたいことである）。この点数学上の関係は、割合明確であるが、かえって、粗遠になってしまっている。職家の技術教育に必要な数学（入試に必要なアカデミックな数学ではなく）をもっと十分に指導してもらいたい。数学で数式や計算も大切であろうが、図形教材はもっと力を入れてやってもらいたいものである。

六、今後の動き等について

最後に清原先生から、有益な御教示を戴いた。製図の指導だけでなく、技術教育にはもっと総合的な学習の指導計画が必要で、現場における実践と結びついた研究がもっと盛り上がってこなければならぬ。外国の例をみても、各国とも、大いに力を入れて国民全体の技術的なレベルを高めている。女子にも、技術教育をする理由として、家庭における技術の水準を高めることがあげられる。スイスの時計工業のレベルは、親子三代にわたる伝統が、大きな力となっていることを忘れてはならない。

すぐに役立つ技術の教育ではなくして、技術による人間教育を目ざして、ようやく軌道に乗った産業教育を育ててゆくことが、大切であるということをもって結びのことばとする。

（報告者 横浜市立大島中学校 杉田正雄）

連盟では定例の公開研究会をひらいて皆さんの御出席をおまちしています。くわしくは研究部あてに往復ハガキでお問合せ下さい。

ちよっとひとこと

高田集会でよかったこと、わるかったこと

大会寸描

◎ // 今年の夏に全国大会をやるそうじゃないか。えらくでかいことをやらかして大丈夫かい。 // 大体職業家庭科は今なにをやっているんだい。一年ごとにかわっているのではないかね。あまりさわがないで、じつとしていた方が落着きが早いぜー //

// いやまあ、御苦労なことだ。大いにやってくれ給え //

いろいろな助言あり、励ましありでともかく学校のことは心配なく大会準備に専心できる体制。これこそ市内十カ校の中学校が集って一つの大会をもつための基礎条件である。その点中学校長会主催のため心配なく。

◎ 大会の専門委員を委嘱されたけれども、およそこのような大会は始めてであり、皆目見当がつかない。まず林先生の御意見を聞く。 // ううむ、なる程、それがいい // すべての事

は軸があつて廻転する。大きな仕事もその例にもれず、卓越せるリーダーが必要。

◎ 申込み締切り当日、事務局に今までの申込み人数をたしかめるため電話する。

// 今のところ二〇〇名余り、市内の先生方を入れてその中に大丈夫三〇〇名にはなりませんよ //

// 第二分科会の人数は //

// 四〇名程度、ちょうど手頃ですよ //

急いで司会者との打合せを行う。万事うまくゆきそうである。取らぬ狸の皮算用、まず上。

ところが締切り後、日を数えることに急増大会三、四日前には会員五〇〇名 各分科会一〇〇名を突破—— // おーい、しっかりしてくれ、これはまたどうしたんだ // 敵は遠方にあつて声とどかず。お互いの立場になつて物を考えることを今日程痛感させられたことはない。しかし、それが現在の学校の実情なのだ。全く事務多忙、先の予定は余程でない

たたないという現状——罪は果してどこに——
◎ // 今大会の目的は、教材の厳選にあります。先生方が現在指導されている教材や今後指導される教材の一つ一つを…… //

さて、それではと云つて、それぞれの教材を取あげられた意味ということになると皆一様に困つてしまった。結局話しあう資料の持ち合わせがなかったのだ。 // 教育と産業 // の五、六月号に資料提供についてくわしくのべられていたはずだが——しかしそれにしても教材を選ぶ観点についての話しあいが行われ教材そのものにもっと目をむけなければならぬ // ないことが指摘されたことは、やはり前進であるうと思われ。

◎ 分科会第二、三日目、普通であれば、歯の欠けるごとく人数の減るのが通例のようにだが、しかし今回は違つていた。職業家庭科には問題が多い。その問題にこれ程までに真剣にとりくんでいる教師がいるかぎり、必ずや職業家庭科はすっきりした性格をもち、だからも好まれ、また必要とされる教科になると思つたのは、決して私一人ではなかつたと思う。この大会で職業家庭科指導についての明るさと自信をもちえたという話をきくに、幾

多の問題は残されたとはいいながら、〃やはりよかった〃という感懐をもたずにはいられない。

高田市立新道中 大浦俊一

家庭科・このよいもの

研究大会終了後、一週間目の今日も、第三部会の会員でいらっしやった三人の先生方から、温情あふれる礼状をいただき、おりから終戦十二年目の記念日の新聞記事に見いていた私は、一そう名状しがたい感激にさせられ、目頭がジーンとしてきた。

「第三部会に加えていただき、大きな収穫をえました。……」

「新潟県は、よくやっついていられるとはお聞きして参りましたが、幾人かの先生方の実践の報告をうかがって、全く感激いたしました……」

「今後とも、悩みにぶつかった折には、ぶしつけなお便りを申しますが、よろしく……」
「迷える小羊を御指導くださいませよう……」
等の文面を再読しながら、今私の胸中を去来するおもいを静かに凝視してみた。

○ ○
おもえばさる三十一年四月、中学校創設十

周年記念行事として、なにをなすべきかと本校においても記念行事について種種協議したが、このような大規模な研究大会が開催されようとは、当時夢想もしなかった。当市中学校長会では、中学校教育における本教科の現在ならびに将来に着眼され、万難を排して本大会を挙行してくださったその御決意のすばらしさ。

○ ○
本大会を、ここまで順序よく育ててくださった多くの方々の御労苦。「林勇君は、大会までにあとのくらいやせるかなあ……」

「林君はこの頃、職業病にとりつかれた……」
等と冗談をいっているうちはよかったが、開会前、二、三日の頃の先生は、実に体力も気力も、あの瘦身のどこに潜んでいられたのかしらと思ふくらい、緻密なプランを手際よく裁いて行かれた鮮かさ。

○ ○
研究発表者の方はまた酷暑の中をそれぞれ現場から鋭く把握された研究物の数数。大会事務室で、大会宛に送られてきた研究物の大きな梱包の数数をといた私は、また格別な感激に見舞われた。

大阪・三重・東京・石川・群馬・長野・栃木・埼玉・福島・静岡・茨城・北海道・大分・広島・山梨・新潟等第三部会の会員の方々は実に広地域から御参集になられた小・中・高・大学の諸先生方九十余名によって編成され、三日間延十三時間にわたる協議の時間をなお不足として、休憩時間をさえ、ともすれば忘れ勝ちに談合したあの緊張した真摯な協議風景。

○ ○
第三部会内に設定した食物委員会、被服委員会、保護看護委員会、家庭経営委員会を返上して、全員が家庭経営委員会にきりかえられて、第五群の教材中、もつとも重要だといわれながら、しかも現場では、片すみに追いやられている家庭経営の分野の現状に対し、どのようなぞむべきであろうか。等一見静かな中にたたえられた白熱的な討議の味。

○ ○
現場の混乱した実践上の諸問題の中に、すじ金を通してくださる講師先生の御努力。口では一般教養教科であるとは、おたがいに唱えながら、まだまだ現場に残存する障壁に対して、私たちは今後どのような視点で教材を厳選すべきであるか、村田忠三先生、清原道

寿先生は、終始具体面から、理論面から、明快な指導の手をさしのべてくださった。

私は今、数数の思い出を脳裏にうかべながらつぎのようなことを思いだした。かつて当

市大学の金原省吾先生が、

「性別、年令別を問わず、古今東西を問わずひたむきに求める道にすすむ人人には、すべて美しい何か潜んでいる」とおっしゃられたことばをこうした意味からも、第三部会の皆様は、それぞれの美しさをたたえていられたように思う。三日間の短時日の間に会員の間には、それぞれなつかしいニックネームがつけられはじめた。紫の君。ナイロンブラウス君、みなの川の君、蝶蝶リポンの君、等どの方向を思いおこしてもそれぞれの熱心な討議風景と結びついて美しい。

分科会員が四十名程度になつたらよいがと当初に思つた人員が、当日までには二倍以上の大世帯にふくれあがり、これでは分科会としての効果をあげかねると、運営委員の方と意見を交わしたが、さすがに遠隔の地から御参集くださった方だけに、日程の午後五時を過ぎても、空席などは一つも見受けられない三日

間であつたことば 誠にうれしく、また討議中常に積極的に発言してくださった方方は、およそ廿名前後で、九十余名の分科会人数も至極適当であつたようにも考えられる。

窓前の芙蓉が爽やかな朝風に咲きゆれて、風鈴の音も今朝はまた格別、ころよく耳にひびく。近くまたこの種の会合が開かれるようにと念じながら筆をおく。

高田市立大町中 池田ハナ

みんなて話し合えた高田大会

教材を厳選し整理することはひとり職家のみでなく、すべての教科が当面している教育の現代的課題である。六三制十年の歩みの一つの反省であるともいえよう。こうした教育のうねりの中に改訂第一年を迎えた職家はそのスタートにあたって特に真剣に考えねば本當に確かな安心感をもつた実践はできないであろう。高田大会がこうしたことと主題をしばられたことは時代を見ぬいて適切だったと思う。それだけに前から楽しみにしていた私どもは、学長以下七名の大勢で出かけた。一人でも多くこの協議会の雰囲気浸って

らうことがなにより推進のキーポイントであると思うからである。「実際参加して、いい勉強になった。」とは帰りの車中で出た偽らざるみんなの声である。

早くから林さんに発表を頼まれた。「時間」が短く急所を十分話せなく申しわけなかったと思う。全体発表も分科会発表もよくあれだけ計画されたと感じのほかないが、やや多すぎはしなかつたか。もう少し厳選し掘りさげの方がよくはなかつたか。それにしても常識的な群別協議会をとらず学校種別による分科会は新しい企画として、下から盛りあがり成功だったと思う。でない視野の狭いセクト的なものに堕してしまふ。教材厳選の角度をみんなて話し合つて抽出したのはほんとうにお互の考え方を確立して一番の収穫だった。欲をいえばもう少し具体例にまで突込みたかつた。

なお実践第一年、スタートしてみても種々多きあつた悩みをもつて来られた先生も多かったと思う。現に私も数人の方から「どうしたらよいでしょうか。」と深刻に聞かれた。そのへんの問題を話しあう機会もできればとさらに夜でも結構だから「連盟会員の集い」

がほしかった。同志としてのなつかしい実践の交換もしたかった。

いずれにしても市当局、校長会あげての協力が六三制十周年記念にふさわしい意義深い歴史的な大会にしたと思う。このようにもってこられた計画のよさと御努力には心から敬意を表したい。

愛知県碧南市新川中 稲垣恒次

大分—東京—高田

東京で母親大会に参加した。これがなければとうてい高田まではやって来られなかった。はるばるやって来るのに勇気が必要だった。日頃やっていることのわからない点、こんな機会をのがしてはとって少少無理な日程を組んでしまった。熊谷発〇時、見知らぬ地でこんな時間になって一層心細くなってしまった。車中は一つも空席はなく、ただつかれるだけだった。話しく小諸、軽井沢などおぼろげに通った。夜明けからやっと席がとれ、窓の外は南国育ちの私にとっては全くのめずらしいリンゴ園だった。思わず隣の方に、「まあ」といってしまった。高田駅ではやさしい行きとどいたお世話に、今までのつ

かれもなおってしまった。第一日はすばらしい講演だったが、時時眠っていたようだ。

第三部会、女教師だけだったが、全国にわたる出席で各地からの問題が山積みされ、二日目、三日目と時間の過ぎるのがおしいくらいだった。実際の体験はみんなを動かさずにはいない。被服指導の示範板、帰ったらすぐ実行しようと思う。カメラではまだ幼稚園だとおっしゃる先生、村人の中にとけこみ、生活改善を通して教育の効果あげようとなさる貴重なお話、すぐとりくめそうな問題で、なんだか子どものようなはずむ気持と、日夜御努力されていらっしやる先生方の御苦労がしのばれた。とくによかったと思うことは、「考えてみて後程お返事を」など、さあ、よくわかりませんが、というようなことがなく、なまの先生方の、御研究の結果のするどい御発言に暑さも忘れ心から笑えた。最後に清原先生、後藤豊治先生にお目にかかり、しっかりやりましょうと励まされ、一人でも多く仲間づくりをしようと思う。今後の御指導を願いたい。全国にお帰りの先生、しっかりやりましょう。

大分県日田市東有田中 淵 初恵

血のかよった研究集会

中学校における難教科である職教科の教育をあらゆる悪条件下でいかにしてその難関を打開し、振興への一歩を進めるかということが私どものせつなる願いなのである。

本年度文部省より研究指定を受け、私どもの学校としては全校あげての研究態勢の確立と研究の推進が目前の課題であった。折も折高田市において全国研究大会が開催されるという通知に接し、喜びと大きな期待とをもつて参加したわけである。大会にのぞんでまず第一に私を喜ばせたのは五百名を超える参加者が会場いっぱい溢れていたということである。第二に意見発表が活発で討議会が血が通ったごとく生き生きといたということである。第三にはお互に悩みを話しあうことから明日からのよりどころと励みとをえたといいことである。第四に研究主題がきわめて適切であったこと。特に改訂指導要領の実施段階にあつて、全国ほとんどの学校において一番問題になっているのは学習の最低必要量とそれにとりなう施設設備はどうあるべきかということ、その点必要感のある主題であ

つたといえよう。第五にはここで苦言を提して今後の参考までに。分科会の司会はたいへんむずかしいものだが、あのような多数の人を迎えた研究討議会において司会者が余程その気で勉強してのぞまないと分科会の進行と取扱いに大きく影響する。私もよく仕事の割りふりにあたって単に年令だとか地位だけから不適切な人選をすることが多いが、司会の点できわめて要領が悪く能率のあがらなかった分科会もあったように聞く。今回に限らず、あらゆるところから、遠く北は北海道南は四国、九州から馳せ参じている熱心な参会者のいることを忘れずに、より大きな効果をあげるための努力をしてほしいものだと思う。

静岡県新居中 石原 静

苦勞もしたが、かいがあった

はるばる北海道はじめ九州までの全国各地から集って来られた方方と三日間、語りあい研究することのできたことは、日頃、どこへも顔をださず、井の蛙のような一人よがりの生活をしていた私には、同じ悩みをもち、悪条件のもとに、研究していられる方方のある

ことを知り、自分の不勉強を恥ずるもにとよい勉強をさせられたと思いました。そして女子にたいする家庭科の指導にはまだまだ問題が多く、大会の主旨によるような系統性、構造化は、成文としては打ちだせなかったけれども、やや方向づけられ、明日からの指導に自信がもてたことをうれしく思いました。

他人の案については、とかく表面だけで「なんだこの案」と批判できるものです。私たちの案もただ時間だけのことで一笑にふされたようですが、教育的良心に燃えて、現場の子どもたちとつくんでいる私たちの声もいまま少しきいてほしかったと思います。私たちはこの大会でえた力と熱意をもって、勇敢に実践していくつもりです。

農村の恵まれない地域に、よい研究実践家が多いと敬服いたしました。時間がなくて十分に語りえなかったと思いますが、発言が片よって、都市の方方の声をいまま少し多くききたかったと残念に思っています。

(大会後、佐渡観光団におともして)

こんな近くにおりながら、はじめて海を渡った印象は、またこの大会があったればこそと感謝の一つ。詩の佐渡、おけさの佐渡と知りながら機会がなかったのです。よかったです

思います。佐渡へ行かれた皆さんいかがでしたか。

直江津港から、おけさ丸。

「海は荒海、向うは佐渡よ」子どもの頃の歌を思いだし、冬の日本海を想い浮べました。

海上はおだやかでした。雨も晴れて、佐渡の山山が見えはじめた頃は、みんな甲板に出て大喜び、パチパチとカメラマンが続出。

尖閣湾の舟巡りはすばらしかった。殊に夕映はなんともいえない印象でした。

バスは少少苦手の方なので案じましたが、きれいなガイドの娘さんにきれいな声で説明されると、疲れ知らずに過ぎました。男性の皆様さぞかしと思えました。うっとりしていた方がありましたね。

新潟駅では、みな名残惜しそうに、またの日を約束して手を振ってお別れ。

全国各地におなじ仲間のあることを知りえて力強く思うとともに、これを機におたがいに結びあい、これからもおたがいに語りあいたいと思っています。参加された皆様殊に女性の方方にあつく御礼申しあげるとともに御後援くださいました産業教育連盟の方方にあつくお礼申しあげます。

高田市立城南中 伊東礼子

会誌既刊分在庫品(主要内容)

昭和30年8月特集号(50円)

農業的分野の設備運営(中村)

工業的分野の標準設備(鈴木)

工業的分野の指導法(稲田)

昭和31年8月特集号(50円)

栽培学習における作業の段階と指導の

改善その設備基準(第一群研究委)

第二群共通の学習内容とその設備基準

(表)(第二群研究委)

昭和32年3月号(30円)

生産技術教育の発展のために(清原)

明日の現場研究に期待する(本田康夫)

新学習指導要領をどう受けとめるか

(第一群)(第二群)解説資料

昭和32年4月号(30円)

教育内容の広さと深さをどういかに

(中村)

新学習指導要領をどう受けとめるか

文部省解説資料(二・五群)

技術語いの基礎基本語(矢野)

昭和32年5・6月合併号(30円)

科学教育と技術教育(芳賀)

新指導要領をどう受けとめるか

(第二・五・六群)解説資料

青年学級学習課程編成資料(山口)

あとがき

△みなさん！御元気でしょうか。二学期は

一番忙しい時ですが、おたがい精をだしてが

んばっていききたいと思えます。私たちが確か

な仕事を目ざして目下苦考しています。

△今月はみなさんからの御意見をたくさんい

ただいて、全国職家研究大会の報告号と

してまとめてみました。

△編集部も大会中は全国の会員のみなさんと

久しぶりに顔をあわせて、ずいぶんお話し

あいができましたが、これをぜひ本誌に反

映していこうと、今からはりきっています。

△連盟からは、清原さんの「高田集會」の成

果をふまえた今後の課題と、長谷川さんの

「新指導要領批判」の総まとめを掲載しま

した。みなさんの今後の実践に役だててい

ただくためにも、十分御検討をお願いいた

思います。

△北海道余市の大垣内さんには、地域のサー

クルで研究討議されてきたことをもとにし

て、実践報告をまとめていただきました。

私たちがこれを手がかりに、これからはも

う一人だけで考えるのではなく、仲間みんな
で、職・家科指導の正しい「よりどころ」
を追求していきたいと思えます。余市サー
クルの活躍を期待します。会員のみなさん
もぜひ連絡しあってください。

△さいごに、高田市の会員のみなさん、たい
へんお世話になりました。私たちはこの研
究成果をもう一段と確かな正しい方向にお
しすすめていくために、全国の会員のみな
さんといっそう結びつきを固くして、とも
どもがんばっていききたいと思っています。

(Y)

(今回は会員名簿を都合により休載します)

教育と産業・九月号

(通巻第六十五号)

昭和32年9月5日発行

定価三〇〇円(送料四円)

編集兼 村田 忠三
発行人

東京都目黒区上目黒七の二七九

発行所 産業教育研究連盟

(振替東京五〇〇八番)

本部 国学院大学教育学研究室内

▽書店販売せず直接注文のこと。

▽会員前納の会員に毎月送附する。

▽会費年四〇〇円・半年二〇〇円。

▽入会者は会費を添えて申込むこと。

予約受付中

産業技術教育講座

こんにちの「課題——科学技術教育振興」の基盤を
解明し、明日の産業教育の具体的な計画、指導法を大
胆に示した斬新な企画。小・中・高校指導者はもちろ
ん、企業体教育、社会教育関係者の必備の講座として
すでに各方面から期待されています。

(編集)

国学院大学 後藤 豊 治
東京工大 清原 道 寿
労働科学研究所 桐原 稜 見
国学院大学 村田 忠 三
国学院大学 太田 卓
文部省職業教育課 鈴木 寿 雄
その他

3 大特色

- ①小・中・高校から社会教育に至るまでの技術教育の系統を各巻でおこえた。
- ②学校教育と企業体内教育の関連をえがいた。
- ③関係用語の概念を統一して巻末に「事典式」解説を付した。

全6巻 (各冊 予価 380円)

1 産業技術教育の歴史的背景

- ▶欧米における産業教育の発達
- ▶わが国における産業技術教育の展開

2 現代産業技術教育の性格と目標

- ▶現代産業技術教育の諸問題
- ▶技術教育の組織・性格・目標
- ▶産業体制と技術教育の動向
- ▶技術革新の動向とわが国の課題
- ▶むすび

—今後の産業技術教育の性格と目標—

3 産業技術教育の内容、方法、評価

- ▶学習内容の編成とその指導
- ▶技術教育の内容・方法・評価
- ▶就学前教育における生産の学習・特殊教育における技術教育

4 産業技術教育の管理

- ▶産業技術教育の行政
- ▶学習の場の管理

5 産業技術教育と生産労働の科学

- ▶雇用・配置と職業指導
- ▶生産方式の発展と生産性
- ▶労働者の健康問題
- ▶労働意欲と生産問題
- ▶職場における人間関係

6 世界の産業技術教育

- ▶ドイツ
- ▶ソヴェト
- ▶フランス
- ▶アメリカ
- ▶イギリス
- ▶スイス
- ▶中国

お申込みは……

(販売元) 医歯薬出版株式会社

電話 7137-9・振替東京13816

(編集発行) 東京都文京区駒込片町32 医歯薬ビル内

生活科学調査会